

佐藤 俊雄（さとう・としお）

1、プロフィール

昭和 48 年、県歌人懇話会副会長に就任。以後、東奥日報社主催青森県短歌大会並びに市町村における県下短歌大会の選者を長く務めるなど青森県歌壇の指導者であった。

<生没>

1909(明治 42)年3月 18 日～1992(平成4)年3月 12 日

<代表作>

遺歌集『赤とんぼ』

<青森との関わり>

佐藤俊雄は、明治 42 年3月 18 日弘前市に生まれた生粋の青森県人である。

2、作家解説

明治 42 年3月 18 日弘前市に生まれる。大和沢小学校、弘中、弘高を経て昭和 7 年3月東京帝国大学文学部卒業。昭和 7 年4月より県立弘前中学校、県視学、弘前市学務課長、県立弘前中央高校教頭歴任。昭和 41 年4月県立八戸東高校校長をもって教職を退任。

昭和 10 年4月、県立弘前中学校同職の森山謙一郎氏のすすめにより短歌結社「潮音」に入社。昭和 38 年1月幹部同人となる。昭和 48 年7月県歌人懇話会副会長(48 年より 63 年まで)。昭和 53 年より弘前潮音会会長昭和 57 年7月より弘前市詩人連盟初代会長。昭和 57 年 11 月教育功勞により勲四等瑞宝章受章。昭和 60 年月宮中歌会始陪聴者となる。62 年6月青森県歌人功勞賞受賞。平成 4 年3月 12 日満 83 歳の誕生日を目前にして永眠。正五位に叙せられる。遺族の願いにより一周忌に遺歌集『赤とんぼ』を発行。

ライフワークとして藤原定家の研究を続け、その資料も多くあると思われるが門外不出、自らを「定家狂」と名乗る。

母校大和沢小学校校歌を作詞、作曲明本京静。弘前高野山法光院住職の懇請に応え境内にある水子観音像を詠んだ歌「生まざりし子ゆゑにまよふ親ごころ大悲のみ手にすがるおもひを」は佐藤中隠の筆により台座に刻まれている。

菩提寺の宗徳寺境内には「八旬の白髪かすかにもえつつぞはかみむかふ紅八重桜」が歌碑として建立されている。

歌集以外の執筆としてまとめたもの、同人誌「潮音東北」No.45、46、50～55 に連載の「治承の春の夜」がある。

3、資料紹介

○歌集『赤とんぼ』

図書

1993(平成5)年3月12日

209mm×145mm

「父には近寄り難く、また遠い存在という印象がありました。それなのに、引きつける何かがあったように思います。父に相談もなく、歌集をつくって怒っているだろうか。いや多分母と2人で苦笑いしているだろう。兄妹4人で纏め上げた歌集です」。長兄、弘次氏のあとがきによる566首を収める。